

第47回日本産婦人科医会 性教育指導セミナー全国大会に参加して

理事 徳永 義光



去る7月26日、27日埼玉県大宮市で開催された第47回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会に参加してきました。

7月26日のプレコンgressオープンセミナーには参加できませんでしたが、乳がん・子宮頸がんの予防と教育との連携に関して「若い世代から考えるがん予防」をテーマに三題の講演とパネルディスカッションが行われました。NPO 法人くまがやピンクリボンの会からの発言もあり盛会だったとのことでした。

その後に行われたウェルカムレセプションでは、先の参議院選挙の話題で持ちきりでした。会の後半はアーティストのTIAさんが総勢30名のメンバーと一緒にゴスペルを歌って大変盛り上がりしました。

7月27日は朝から本セミナーが「未来を拓く性教育：DXによる性教育イノベーション」を大会テーマとして行われました。開会に際し埼玉警察音楽隊による歓迎の演奏があり、和やかに始まりました。

大野元裕埼玉県知事以下七名の挨拶の後、メディアアーティストであり筑波大学准教授の落合陽一氏から「未来の教育におけるAIの可能性 生成AIが変える未来」というタイトルで特別講演がありました。生成AIの名付け親である落合氏は、今後全ての生物と同じ数のコンピュータが人間と共存して「Digital Nature」が生まれる。全ての個人情報スマホに集約され、病院での問診に本人ではなくスマホがしゃべって答える日が2030年には現実のものとなるとのことでした。

性教育における生成AIの可能性として「24

時間アクセス可能な情報源」「匿名での質問が可能」「個別化された学習体験」が挙げられる一方で、「誤情報の拡散」「ジェンダーステレオタイプの強化」「プライバシー侵害の可能性」などのリスクもあると指摘されました。人間相手だと話しにくいことが生成AIには話せたり、人間には質問しにくいことを生成AIには訊けたりという若い世代の特徴を理解しながら性教育をDXして行くことは、リスクを回避しながら進めなければならないという印象を受けました。

その後シンポジウムでは三ツ林裕己氏（元内閣府副大臣）、高橋純氏（東京学芸大学教授）、谷口恵子氏（プチ・レトル代表取締役）、今井賢氏（自治医科大学さいたま医療センター産婦人科）、加藤恵利奈氏（日本産婦人科医会情報技術部会）が登壇されました。

高橋氏はGIGAスクール構想と授業DXというタイトルで講演され、現代の学校で個人個人に合った学びが生成AIを含むDXにて実現できていることを示してもらいました。

谷口氏は生成AI最新動向と性教育への活用可能性という講演の中で、性教育における教材作成やその個別化に生成AIは大きな力を発揮すると話されていました。

今井氏は自身の性教育出張授業に“Kahoot!”や“Google Forms”を使い、さらにWebサイトで疑問を解決していくことで生徒の授業の満足度が上がり、産婦人科受診のハードルが下がると話していました。

加藤氏は性教育の新たなアプローチとして、日本産婦人科医会が開発したAI搭載型チャットボットと動画教材を活用したオンライン性教

育の実践例を紹介していました。内容は広く浅い状態でこれから改善すべき点が多くあると感じました。

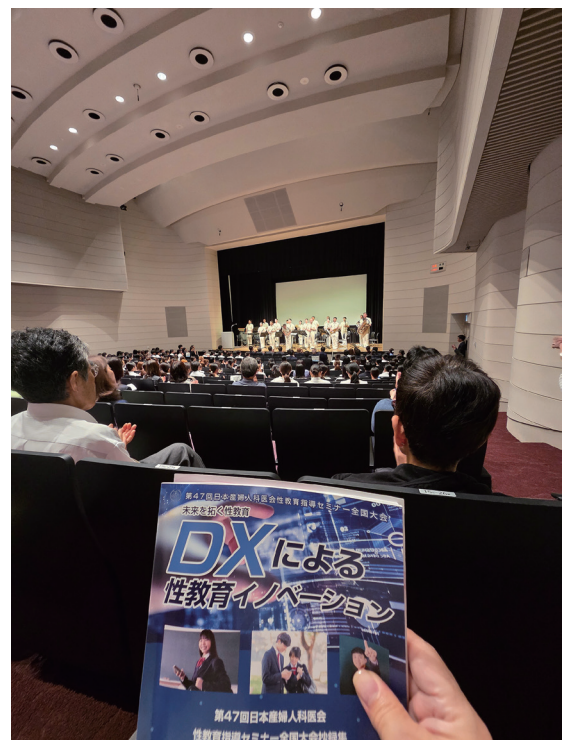
ランチョンセミナーではジャーナリストでメディア教育評論家の渡辺真由子氏による「ソーシャルメディアが性教育に果たす役割と課題」というタイトルで講演がありました。性教育にメディア・リテラシーの導入を提言している渡辺氏はメディアが関連する性暴力や性犯罪がこの10年で増加していることを指摘されました。生成AIによって子どもを性的に虐待するコンテンツ(CSAM: Child Sexual Abuse Material)や「ディープフェイクポルノ」の問題が深刻化しており、性教育にDXを用いる前にメディア・リテラシーの浸透が重要であると話されていました。

午後から性暴力・性犯罪に関するパネルディスカッションが開催されました。まず日本医師会の濱口欣也常任理事による「性教育が性暴力・性被害者支援にどう関わるか」と題して基調講演がありました。従来の性教育は思春期発来に合わせて小学4年生から始めるが、性暴力・性犯罪はその年齢を待ってくれないので、新しい性教育の発想が求められるとのことでした。性犯罪被害者支援はワンストップ支援センターを柱に行われていますが、産婦人科だけでなく小児科・精神科・児童精神科・泌尿器科との連携協働が課題であるとのことでした。

その後、長坂桂子氏（京都橘大学看護学部准教授）、井本寛子氏（日本看護協会常任理事）、星名竜一氏（埼玉県県民生活部防犯・交通安全課犯罪被害者支援担当 主査）、照井忍氏（埼玉県警察本部警務部警務課犯罪被害者支援室長）、中村尚樹氏（埼玉犯罪被害者援助センター専務理事）、鈴木永純氏（深谷赤十字病院 産婦人科

部長）、安藤玲氏（内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課課長補佐）の皆様から性暴力・性犯罪の現状、どのように予防できるか、性暴力・性犯罪被害者の支援の現状に関する講演がありました。刑法改定による「相手の同意の無い性的行為は性暴力である」等の認識を社会全体で共有していくことが重要であると述べておられました。

性教育が単に性感染症や若年妊娠の予防を目的としたものではなく、性暴力・性犯罪から自らを守る術を教え、自分と他人の人格を尊重し、すべての男女が望む自らの人生を歩むための大切な教育であることを改めて確認できました。その目的を達成するためにはDXが不可欠であることも認識できた素晴らしいセミナーでした。



プログラム日程

プレコンgres オープンセミナー

「女性の健康を守るためのがん予防：医療と社会と教育の連携、そして生命の大切さについて」
～若い世代から考えるがん予防～ 子宮頸がん・乳がん、それぞれの未来を守るために

7月26日（土）

開会挨拶（15：00～15：10）

基調講演（15：10～15：30）

チームで取り組むがん教育～熊谷市の取組～

根岸 幸代（熊谷市立富士見中学校養護教諭）

講演1（15：30～16：00）

「乳がんについて正しく伝え女性の未来を守りたい」

乳腺内分泌外科医 児玉ひとみ（埼玉石心会病院 副院長 乳腺内分泌外科部長）

講演2（16：00～16：30）

「子宮頸がん予防と HPV ワクチンと検診の役割」

産婦人科医 川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 主任教授）

休憩（16：30～16：40）

2. パネルディスカッション（16：40～17：40）

「女性の健康を守るためのがん予防：医療と社会と教育の連携、そして生命の大切さについて」

座 長 高野 政志（防衛医科大学校教授）

羽賀登喜子（NPO 法人くまがやピンクリボンの会 理事）

指定発言1「サバイバーの勇気がみんなの希望につながる」

患者代表 栗原 和江（NPO 法人くまがやピンクリボンの会代表理事）

指定発言2「子宮頸がんが教えてくれたこと」

患者代表 羽賀登喜子（NPO 法人くまがやピンクリボンの会 理事）

パネリスト

乳腺内分泌外科医 児玉ひとみ（埼玉石心会病院 副院長 乳腺内分泌外科部長）

産婦人科医 川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野 主任教授）

養護教諭 根岸 幸代（熊谷市立富士見中学校養護教諭）

総合討論（30分）

閉会挨拶（17：40～17：45）

性教育指導セミナー

未来を拓く性教育「DXによる性教育イノベーション」

7月27日（日）

開会式（9：15～10：00）

大会長挨拶 平田 善康（埼玉県産婦人科医会会長）

主催者挨拶 石渡 勇（日本産婦人科医会会長）

来賓御挨拶

特別講演（10：00～11：00）

「未来の教育における AI の可能性 生成 AI が変える未来」

座 長 平田 善康（埼玉県産婦人科医会会長）

演 者 落合 陽一（筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長 / 准教授）

シンポジウム（11：10～12：50）

「DXによる性教育イノベーション」

座 長 桑田 知之（自治医科大学附属さいたま医療センター教授）

演 者 中川 博之（さいたま市立病院部長）

特別講演 「教育現場における DX の推進と健康教育の未来」

演 者 三ツ林裕巳 (元内閣府副大臣 / 前衆議院議員 / 日本産婦人科医会 顧問)

基調講演 「GIGA スクール構想と授業 DX」

演 者 高橋 純 (東京学芸大学教育学部教授)

特別講演 「生成 AI 最新動向と性教育への活用可能性」

演 者 谷口 恵子 (プチ・レトル株式会社代表取締役)

講演 「性教育を生徒自身のこととして考えるために：スマートフォンを用いた参加型性教育の実践」

演 者 今井 賢 (自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科講師)

講演 「性教育の新たなアプローチ：チャットボットや動画教材を用いたオンライン性教育による主体的学びへの提案」

演 者 加藤恵利奈 (加藤クリニック院長・日本産婦人科医会情報技術 (IT) 部会)

ランチョンセミナー (13:00 ~ 13:45)

「性教育とメディアリテラシー」

座 長 石谷 健 (日本産婦人科医会常務理事)

座 長 牧田 和也 (牧田産婦人科医院院長)

「ソーシャルメディアが性教育に果たす役割と課題」

演 者 渡辺真由子 (ジャーナリスト / メディア教育評論家)

パネルディスカッション (14:00 ~ 16:20)

「性暴力・性犯罪予防と被害者支援」

座 長 安達 知子 (日本産婦人科医会副会長)

座 長 梶原 健 (埼玉医科大学教授)

・基調講演 「性教育が性暴力・性被害者支援にどう関わるか」

演 者 濱口 欣也 (日本医師会常任理事)

・「性暴力・性犯罪の予防の取り組みと隙間のケア」

演 者 長坂 桂子 (京都橘大学看護学部准教授)

・「性暴力・性犯罪被害者支援の方法～看護職による性暴力被害者支援の役割と課題」

演 者 井本 寛子 (日本看護協会常任理事)

・「埼玉県における性暴力被害者支援の取り組み」

～性暴力・性犯罪被害者への支援における連携・協力に関する四者協定から 10 年～

「四者協定の取り組みの概要」

演 者 星名 竜一 (埼玉県県民生活部防犯・交通安全課犯罪被害者支援担当 主査)

「埼玉県警察における性犯罪被害者支援」

演 者 照井 忍 (埼玉県警察本部警務部警務課犯罪被害者支援室長)

「アイリスホットラインの支援状況」

演 者 中村 尚樹 (埼玉犯罪被害者援助センター 専務理事)

「四者協定から 10 年—埼玉県産婦人科医会が担ってきた性犯罪被害者支援の軌跡と展望」

演 者 鈴木 永純 (深谷赤十字病院 産婦人科部長)

「性犯罪・性暴力被害者支援施策の現状」

演 者 安藤 玲 (内閣府男女共同参画局 男女間暴力対策課課長補佐)

・パネルディスカッション ～まとめ・今後の展望～

閉会式 (16:20 ~ 16:30)

次年度担当県 宮崎県

閉会挨拶 大会副会長 亀井 良政 (埼玉県産婦人科医会副会長)